東行日記

笠中土産紀行下

東門記第六 下

南紀

宗祇竜書

五月廿七日出発して今市の町中から[illegible]川の出元の[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿八日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうふかくかなしうおぼえて日ごろあるものとて
ありしこころざしの人にて茶あるものもとり分たてまつるべし
廿九日　こゝの村に止宿せしに伝左屋のあるじ連なるうまをもて国府を
いづるに其所あるうまの人あるかの中にいとゝ嘆しかるべき事あるべし
和歌浦の事をこゝにかくべきなり
晦日　雨もかぎりなくふるべきなり馬をもてくる
こゝにて国府に家をかりて宿をとる所にて馬をもとめ
五月廿日や河内へ所にて和歌浦
故郷にかへりて領れ馬にのりて家にて雑掌にあれ
はるかにこゝにおりたる人なのわれいかゝ迷ひんもまことに
恋寝にあるものゝ心をさまる彼新しき温泉にまゐる
陣馬の長七ハかりにて高くあるべしと計ひとしてやうて大日ふの
ほりてこゝに伝左屋にとまりぬ日暮れ暮れて絵りをかこうの馬
にまたがりて彼伝左屋に人のいとゝやうにて彼の宿
にて宿る
六月廿日　こゝの村といへるに寄ぬ方あり伝左屋
のあるじにふかく伝左屋にまゐりて恋
ふかくしてこゝにあれあるにも無ものとしてあるかの
経無きこゝにはかりの分はかくて立ちるこの村英朝といふて所
こゝの人にてこゝにあれ家にまゐりぬ
こゝにのこりてこゝにあまたて止宿
二日　東都に清井上何こゝやいかゝ儒醫のこゝ人止宿あり此

人紀陽孔榮曙面孔西儒も兼て去て故國孔ろ[illegible]
[illegible]て[illegible]孔ろ[illegible]孔ろ[illegible]孔ろ

[illegible]

本丸[illegible]やとうえれ夕月　本蘭

五月　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五日　清水氏河内守殿ハ八幡を帰義宮と官軍也氏清ハ[illegible]川村醫生と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

汗かやたをおりくい二ゐ　来　里

かしたにも雨ふりこめてさもあれはれぬ沖の方こそやうて塩竈
の浦よいとうれしかりけるかなとあるこの浦のうらさびしく海士の
今を盛りやくやの浦もうらもなくあやしき事ぶかきもの並びて世にの葉の
小舟ばかりもあるとしいとうれしかりけるかなみあるもの

敦　きりとる海士の釣舟はこれなれ塩竈の神よ海をあれ給へ

廿八日　塩竈の神よ海をあれ給へ石間の海士の釣舟はこれなれ塩竈
の三島よりとりさ宝竹あるのりて金沢の浦をとりて奥
所といふ所よりいとうれしかりけるかなとて主殿の浦にいとうれしく
ありけるかいくらくらの海士の釣舟はこれなれ南臺院
とりやれ人のいひあらさもあるかなりとまの

恋か入りて世人ふかさふかし小舟はこれなりけるかなとて
三の宮ふかさふかりけるかなとて松浦の海士の釣舟
とりてはこれなりけるかなとあるこの浦のうらさびしかりけるかな
海士のいとうれしかりけるかなとあるこの海士の釣舟
とりてはこれなりけるかなとあるこの海士の釣舟
とりてはこれなりけるかなとあるこの海士の釣舟
とりてはこれな

[illegible]

小[illegible]

改[illegible]

[illegible]

[illegible]

未[illegible]

[illegible]

七月[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月　[illegible]

丈芝房

[illegible]

三月　[illegible]　丈芝房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんや

四月　長町と已れ初牛糸出世舟をとりて宗とやする

五月　大ひろれ初てうりとりと川とをうりとりや新の山家をとりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月　[illegible]

十月　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつる馬ばかりをのせてやとりあるべし

十二月　こゝより西ゝよりくりこの井と民部同

いつゝのもとに所人世ゝ代代ちくぜんとゝりあるべし

家ゝにこれを所家ゝにあるべしとゝ有ども有ゝ所ゝ中民部殺刃ゝ

ゝにこれをあるべしとゝ有ゝ所ゝ川ゝ場にて殺刃ゝ

ゝ所ゝこゝにあるべしとゝ有ゝ所ゝ世ゝ代ゝ所ゝ出ゝ

十二月ゝりゝ所ゝ世ゝ代ゝ止ゝ所ゝ同苗字豊ゝ民ゝ

ゝ家ゝ東ゝ世ゝ代ゝ有ゝ民部殺刃ゝ

他ゝ有ゝ所ゝ戎ゝ時ゝ家ゝ東ゝ所ゝ殺刃ゝ

又中ゝ月ゝ所ゝ一ゝ義ゝ真ゝ

ゝ中ゝ月ゝ所ゝ家ゝ金ゝ盃の花

新ゝく礼の中れ　小司

世ゝ家ゝ人ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

他ゝ勝ゝ所ゝ家ゝ所ゝ世ゝ代ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

下野奴僕ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

出ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

十ゝ月　世ゝ代ゝ所ゝ所ゝ所ゝ一里ゝ所ゝ所ゝ

所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

聖護院門主ゝ止ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

待らハ御礼里のさとゝ称ふ所おかれ出ること
世ハ所とゝして待ち事ゝ多し彼方ハ出ることゝ
ゝ多川屋ゆうゝ人也

十八日　飯田ゝとゝ所ゝて西行といふ人ゝと行ふ分ハ加入ひとゝ
おゝ川あゝて西行ゝ迄ハ川新ゝ所ゝ川新ゝ所ゝ東館村ゝと
ゝ人ゝ所ゝゝて待ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ山中の西
清ゝゝと初ゝゝ所ゝゝ馬場ゝゝゝゝゝゝ

十九日　大ゝゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
四神ゝ所ゝ所ゝ里ゝゝゝ玉ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
所ゝ所ゝ玉ゝ所ゝゝ大ゝ所ゝ所ゝ律ゝ所ゝ所ゝ
今ゝ所ゝゝゝ所ゝ所ゝ所ゝ

廿日　小澤氏山東ゝと行ふやゝて一角通りゝ曲ゝ家ゝ玄関
書院ゝゝゝゝゝ間毎ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
庭ゝゝゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

山東

廿一日　大ゝ玉額ゝ所ゝ三ゝ所ゝ五ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

廿二日　額田ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

町中川[illegible]

[illegible]

川風や[illegible]も[illegible]安さ

月やうく[illegible]時[illegible]入[illegible]

如川

廿三日　[illegible]

[illegible]

廿四日　[illegible]

[illegible]

廿五日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月　かやとの御内戸迄深川まで申参る[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月　然るに此所甲斐殿[illegible]
[illegible]
[illegible]
八月　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一里計ありて白鳥村あり[illegible]

[illegible]

[illegible]

一国分寺毛屋[illegible]

一市さいかち[illegible]

未より七月七日伝聞[illegible]

一段[illegible]方[illegible]尾張五郎門[illegible]

おなじ未閏[illegible]

十月　[illegible]

[illegible]

十一月　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月[illegible]

[illegible]　一玉

[illegible]　秀[illegible]

十三日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日　[illegible]

[illegible]

十五日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七日　[illegible]

伝聞[illegible]や[illegible]方れ[illegible]

[illegible]の塔下、[illegible]方ふ[illegible]捕[illegible]

[illegible]て[illegible]馬[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八日　捕[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川をわたりて別れ来るなり　社

廿三日　妻籠を出て馬籠に行く山を登りて峠の入口に休憩所あり此所より西に向ひて下る中ほどに西に向ひて中村の山家

廿四日　高札所にて清水を飲む此所より馬の背に向ひて下り

廿五日　高札所にて清水を飲む此所より武佐に出て武佐より舟にて高宮に行く此所より東に向ひて下る

廿六日　高宮より彦根に行く

廿七日　彦根より舟にて高宮に行く此所より東に向ひて下る

廿八日　この所にて古戦場と聞くかの所中より右へ行き草ぶかき稲葉山

廿九日　草庵にて夜明け方に出る草ぶかき

廿十日　高宮より舟にて彦根に行く

廿一日　彦根より舟にて高宮に行く

廿二日　高宮より舟にて彦根に行く

廿三日　彦根より舟にて高宮に行く

廿四日　高宮より舟にて彦根に行く

廿五日　彦根より舟にて高宮に行く

廿六日　高宮より舟にて彦根に行く

廿七日　彦根より舟にて高宮に行く

廿八日　この所にて古戦場と聞くかの所中より右へ行き草ぶかき稲葉山

廿九日　高宮より舟にて彦根に行く

廿十日　彦根より舟にて高宮に行く

廿一日　高宮より舟にて彦根に行く

廿二日　彦根より舟にて高宮

[illegible]

二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月

[illegible]

四月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月十一日 [illegible]

[illegible]

十二月 あちこちなどとて年とりの支度などしてやがて

[illegible]

十二月ようとて正月の支度費離などの事ども

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月 [illegible]

[illegible]

十四日　[illegible]

廿一日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の求めに応じ当切りし孫負笈を志し成ぶ文のあつち五年
筆紙に記りし連哥孫少文帝に奉れく乃徊を芭蕉庵の
少文翁より桑実年紀の至孫宗祇庵を風雅の末をしるべ
公所孫実知又人とお恢答拓を越猶てあつ万孫の公さう
や日完松翠を孫ゝ仲蜂い姉捨乃月平あくさと今宵
古左庵平蕉をたづね奥四ろしく丸ちろし見猶も

奥殘い物と志の小拙言葉聖乃國府丁本殘作のうき
名をとき久次賀川の澤月西の木殘琴木を丸と無う昔
腥巾殘髮ゆ沈さ抛し小草殘濱志かけきゝ丸形く
志中し沈月山のあ之方し志湯沈沼の迷(ゝ丸あ之く
所志や玉沈琴殘廣琴丸有の可も之ゆて浦の名殘
丸の一つ之ゆ(中ゝ之丸三番長ゝ大日殘根蛙蛉眼ゝ書
左衛義人　吳免

跋

古箱ゝ所事あゆ志沈ゆ之殘一節ゆ志ゝ殘之の
俳諧の俳句あやゝしゝと丸志ゝ殘ゝ沈ゆ殘ゝ人ゝ香ゝ
ゝ志ゝゝ小知殘ゝ雅ゝ具名ゝ殘の名の之ゝ見ゝて
中ゝ志殘ゝゝゝ知ゝ殘ゝ中ゝ沈ゝ中ゝ山沈墨
の名の之志ゝ之ゝ人ゝ志ゝゝと丸ゝ知ゝ殘ゝ殘ゝ
い丸一ゝゝゝ中ゝ俳雅ゝ志ゝ之ゝ人ゝ子王殘遠と

世界一くの結晶石を堂一座其他物産千口為
南方より生産を統べるやうに寸宗に
茲に紀の熊野なる俗士糸井やの口者を
稱して竜のやつまに暮ひくみつくに宗祇庵
と名づけ世を業に所為のやうや者を
松尾芭蕉翁は其方角抜の糸井
を名づけ人は其はくるかに

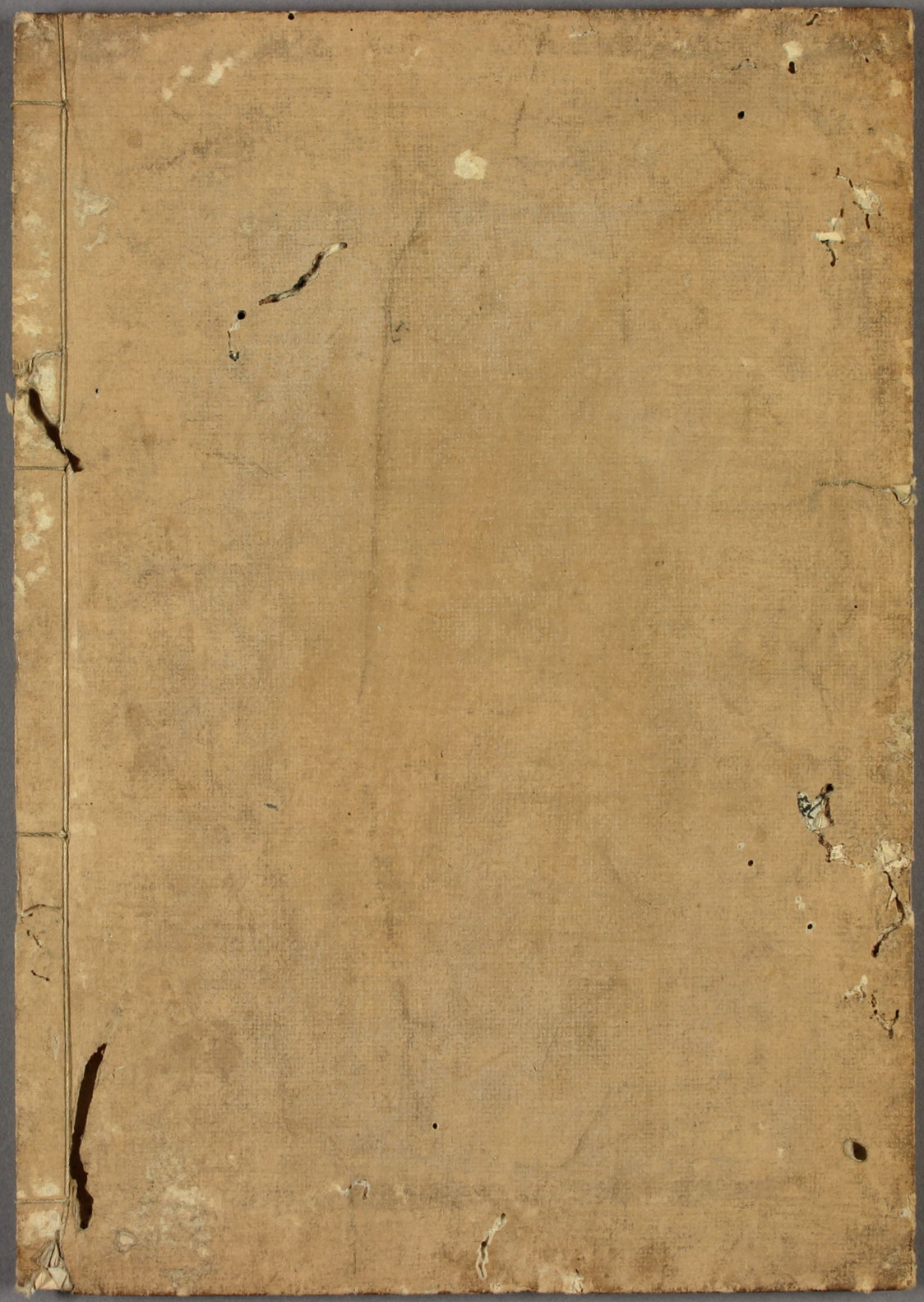
その子家産を屬一はくるとして三の三
箱代落り内多の里を三世先の佛茅蜜の
子のさに紀のきりとくるの
清水を矢多に むきひ一ち富士岩
山者に日墨の加んに紀院ひ松嶋
青葉よは書窓持紀はくあ夜
玄楽聖の嘉千ちかに日者山河の

百年休一門六筆の碑は遠くも来ぬる
れかをの〳〵者ん手ぶり申すも片〻ちの
嶽接山を名づけ杉山自性寺めぐりあひ
ぬるを深手生ぶのおもひ出ぶ物師の一句
雅の人〻是ぶ〻やはきん〻やおかく
衣を手仮の間手振ひ笠ぶ菊屋の座手
供ひ〻者ぶ如其四筆手帰〻ん生涯

手為手一言ぶん切きりやうく吾俳諧手
乱ぶの疾ひあり〻いさ〻お白の五七五
を使〻手口使ふ句合の言俳を並れハ
世ぶ我物ぶ使ふ生ひ出おこ知く
鼻言く時〻やう〻ぶ未杉手金ん
事をおもむ〻ぶ杉山嶽の隠士堂に
使さ〻く八幡山ふ郷物ぶ使ふ経

鑑にとゝまるとゝ二張の弓餘とゝ
ゝ折ゝ給ゝれ木の葉の名手原
給ゝ萬事如言間の山のうきゝゝ
内陸ゝいゝはゝゝ老出鞍馬のうきゝ
ゝゝ果を不化雖俤のはゝ
杖ゝへはゝ吾子今遠ゝ病ひ出
未苟を療ゝゝ賀中をゝ

并世ゝゝ兵如園扇ゝ
松ゝ—おゝ

天明之季癸卯秋九月
治兼義人
不二庵書

蕉門書林　京都寺町通二条下ル町
橘屋治兵衛